

感じたこと、思ったことを文章化することの大事さ

各学校の最初の講義日に、次のような話をしている。

【 大学とは学問する所であり、学問とは字の通り「学び、「問う」所。

専門分野の知識、技術を学ぶのは当然のことだが、それ以上に「問う」力を養う所。問うためには、自らの思考・思索（自分の見解）を持っていないと問えない。

学ぶ過程から得た自分の知見を自らの言葉で周りを説得する力を養う所。

その力は、感じること、思うことを言葉にし文章化する作業の中でこそ培われるから、大いに言葉や文章にして周りに発信する練習を重ねるように！ 】【

その練習を兼ね、毎回の出席調べがてら授業のコメントを書かせたり、評価もレポートにすることがある。

ある学校の評価のための提出レポートに、ある学生は次のような追記をしていた。

【 今回、このようなレポートを書くにあたって私は大変勉強になったと感じている。

普段は何かを感じたとしても、心の中にしまって自分の中で解決していくことが多いが、今回このように文章にしていくことで、私が今考えていることが自分の中でも確認できたと感じるからだ。

字数が多いこと（注：レポートの字数を指定）がとても大変であったが、それだけの内容はあったと思う。

このような機会は学生の間でしかないことだと考える。本当によかったと思う。 】【

授業で話した意図が学生が実感したことを知り、敢えて話した甲斐があったとつくづく思った。

授業に限らず、メールで相談事の学生たちにも、「モヤモヤを整理するためにも、まずは言葉に出して誰かに聴いてもらうか、文章にして見てもらうかの勇気を持つように。

いつでも、いつまでも聴き役のお手伝いはするから、何度でもメールを寄越していいからね。」と伝えている。

色んな事象に対して、何かを感じ、思うのは主観的自分であり、文章化するのは自分を客観視する作業となり、主観的自分では気づけなかったもう一人の自分に気づく機会となる。

カウンセリングで傾聴が大事と云われるのは、こうした意味からだと思う。

いずれにしても、感じたこと、思ったことを、言葉にして話す以上に文章化することは大事なことだと思う。

HPであれこれ発信しているのも、何歳になろうが、感じたこと、思ったことを文章化する自分自身の練習も兼ねてのこと。

後で読み返すと、忘れがちな自分自身を再確認することも出来ますしね。